

1 小学校提言『学校全体で取り組む道徳教育の指導と評価』について

苫小牧市立泉野小学校の河毛留美先生からの提言資料について、価値付けするとともに意見を述べさせていただきます。まずもって、自校の校内研修2/3年次の取組を紹介され、その研究の窓口が「道徳」であることに敬意を表します。かつては、校内研究として道徳を研究している学校は数多くありましたが、近年、窓口を「道徳」に絞っている学校が減少している中での、学校単位での貴重な研究と捉えています。道徳の時間の位置付けを年度初めに全校体制でオリエンテーションをして方向付けるとともに、アンケートを実施したり、別葉を精度高く見直したりするなどの取組は、研究校でなければなかなかできにくいものです。

その中であって、道徳教育の充実のために本時と事後の指導を結ぶ「道徳コーナー」の設置等、一時間で収束する道徳ではなく、学習した内容項目についての理解を事後の指導として児童に意識化する取組。そして、道徳通信を発行して保護者の関心を高め、家庭と連携しながら道徳性を育てようとする取組が、一つ一つの成果に繋がっていると思いました。

課題点として、学習後の評価が、子どもたちのワークシートとアンケートを基に授業改善に向かわせていることは分かりますが、その手順がイメージしづらく、どのような具体的な取組で授業改善に生かされているのかを明らかにしていくことが必要と考えました。心に残っている話を記述してもらうことで、児童の気付きや想いを把握し、個々の評価には生かせるものの、職員室での道徳の話題が増えたことや道徳に力を注ぐ環境が充実してきたことと絡めて、どう具現化したのかを知りたいところでした。3年次目の研究では、児童の評価をどのように授業改善に具体化するかの視点を明確にしながら取り組みいただくことを期待いたします。

2 中学校提言『考え、議論する道徳の授業づくりと評価』について

北教大附属釧路義務教育学校の三光楼正洋先生からの提言資料について、価値付けするとともに意見を述べさせていただきます。本実践は、特別ではない日常の実践として、三光楼先生自身の道徳の学習を作り上げる手順が具体的に示されるとともに、日々の授業での評価の手法について書かれているものです。

特に、「生徒と教員が共に考える道徳学習」を大切にされて授業を構想され、「道徳メモノート(道徳構想ノート)」の活用が若い方には参考になるところです。中でも、「考え、議論する道徳」の授業づくりには、その土台として教材研究等の準備時間が欠かせません。

授業資料・教材の蓄積の話がありましたが、おそらく使用する教材等を指していると思われますが、かつて道徳研究校に勤務した折、授業終了後にその時間に使用した掲示物・補助資料等とともに、略案(授業構想メモ程度)と最終板書写真をセットとして、A3版クリアファイルに収め、35回分を透明な衣装ケースに保管し、次年度も見据えて他学級で使用できるように、全校体制で取り組んだことがありました。道徳における次年度以降の時短をねらった取組でしたが、効率的に道徳を実施するためには、個々の授業構築のための作業の質を高めるとともに短時間で教材研究ができるシステムも、成果を出すためには欠かせない取組であると考えます。

今後、「ポートフォリオ評価をデジタルで残し、内容項目ごとの3年間の変容を見取る。」ということを検討中とのことですが、どのような目的の下でどんな方法を取れば、効果的であるのかの検証が楽しみです。御期待申し上げます。また、反省の蓄積がないことを課題として挙げておられますが、より効率的にそしてねらいに確実に迫るためには、反省を生かしての授業は当然求められます。校内体制で簡単に実施するためには、教育課程に朱書きで残しておく方法が一般的です。どうか手間暇を少なくしながら、改善・工夫の成果が出るように今後も研究を続けていただけたらと思います。